

目 次

- | | |
|----------------|--------------------------|
| 1) 卷頭言 | 5) 第2回 理事会議事録 |
| 2) ミニレクチャーに寄せて | 6) 第3回近畿周産期こころのケア研修会開催報告 |
| 3) 総会報告 | 7) 第12回高知周産期こころの研究会開催報告 |
| 4) 第1回 理事会議事録 | 8) 開催記録・事務局からのお知らせ |

卷頭言

日本周産期精神保健研究会 副理事長 高橋 雄一郎

(岐阜県総合医療センター 産科・胎児診療科、ぎふ周産期こころの研究会)

「小さな戦争と向き合う」

世界では止められない戦争に加えて、4万人以上の人々の命を犠牲にした大地震がありました。

我が国では新型コロナ感染症の5類への変更が問題提起されています。実に3千万以上の方が感染し、7万人以上の方が亡くなりました。このような時代に必死に生きる我々にとってついつい大切なことを見失いがちになります。小さな心の問題です。忙しい、という字は心を亡くす、と昔からよく言われます。このような時代だからこそ、今家族を支える、我々の活動、精神保健が掛け替えのないものとなっています。このような厳しい、そして優しい人生を彩るのは、優しい心の掛け合いに他ならないでしょう。

私が勤める、総合周産期センターでは、毎日、多くの生命を救命すべく様々な診療が行われています。先日、推定体重が300g前後の赤ちゃんを娩出させるかどうか、全体カンファレンスで議論がなされました。何回も流産を繰り返した後の妊娠で、ご家族は「ワラをもสがる」思いでおられます。我々は、医学成績から推定体重が300gを超えるようであれば帝王切開術で娩出をトライするという方針としました。胎児の循環が悪化していくのが日々見て取れ、推定体重が超えた段階で、一か八か娩出に踏み切り、赤ちゃんは生きて生まれてきてくれました。ご夫婦はお子さんとやっと巡り合えました。そしてこの後、お母さんには厳しい情報が毎日入ってくる、そんなベッドサイドとなりました。こんなご夫婦の小さな“戦場”は、大きな世界と同じだけの大きな心の葛藤が存在します。このファミリーにとっての、新しい家族の

誕生と共に背負った、心の重荷を多くのメンバーで支えようと日々努力しています。

自分は「周産期診療にもアドバンスケア・プランニング（ACP）」があると考え実践しようと考えています。ACPは、がんの終末期に、自分の残された時間をどのように過ごしていくかを支える医療で、方針をよく相談して、ケア方針を選択していきます。周産期にも、そのような医療がある、と考えています。船戸正久先生が、周産期のアドバンスケア・プランニングですね、と教えてくださいました。出生前の胎児は“fetus as a patient”と言われるように様々な診断がつく時代です。我々の科では循環の評価を行い、胎児治療も行います。そんな医療を行うにつれて、家族とよく方針を相談し、様々な選択肢を考え、できるだけ正確な診断を根拠に胎児の緩和ケアから積極的な治療のトライまで幅をもった医療メニューが提供できることを目指しています。それは、生命の限界という厳しい現実を突きつけられたご家族を優しく支える、という事に他なりません。

先日、空に帰された仁志田先生から学んだ一つに、時間と空間を越えた連続・不連続の思想があります。われわれの社会を形成している接着剤のような役目をしている最も大切なものが心の繋がりであり「共に生きるあたたかい心」というものです。よく酒の席でご一緒すると「僕はね、本当にこれが、戦争をなくすと思ってるんだよ」と語られていました。今でも自分を律する大切な言葉の一つになっています。

今年も日々起る、多くの周産期の小さな戦場に多くの仲間と立ち向かっていく一年にできたらと考えています。

ミニレクチャーに寄せて

日本周産期精神保健研究会の設立から13年の年月が流れ、周産期医療の場には医学的アプローチだけでなく精神保健のアプローチが欠かせないという同意が浸透してきたはずでした。しかし、3年前からのコロナ禍によって、多くの周産期医療施設は治療と感染症対策に追われ、こころや関係性へのケア・サポートは、十分に行えなくなりました。コロナ禍の今、そしてwithコロナへと向かう今だからこそ、あらためて周産期精神保健の意味と意義について考えてみようと思いました。

周産期医療施設は、治療の場であり医療的ケアの場であります。そして同時に、親子が出会い、家族の関係が育ち、こころが育まれる場でもあります。第一に求められるのは確かな医療・看護技術、つまり医学的アプローチですが、赤ちゃんと家族へのこころのケア・サポートも欠かせません。周産期精神保健のアプローチが必要とされるのです。どちらが大切かということではなく、両方のアプローチがそれぞれに追及されることが大切なだと考えます。

周産期精神保健は、ハイリスクなケースだけではなく、すべての赤ちゃんと家族を対象にしています。すべての親子の育つプロセスを守ることを大切に考えているのです。そして、周産期精神保健の担い手

日本周産期精神保健研究会 副理事長
臨床心理士・公認心理師 橋本洋子

は、周産期医療に関わる全てのスタッフです。医師、看護師をはじめとして各職種が各自の専門性を生かし、赤ちゃんと家族への人間的配慮をもって関わることは、それ自体がこころのケアの意味を持ちます。多職種や地域そして親自身が一つのチームとなり、情報共有による「多職種連携」を超えて、赤ちゃんと家族を中心臨機応変に動ける「多職種協働」を目指していきたいものです。

周産期精神保健は、多職種のスタッフがそれぞれにこころのケアを行う時、互いに理解し尊重し合えるための共通言語となるかもしれません。また、どんなに忙しく、インテンシブな治療が行われていても、たとえスタッフの顔ぶれが変わったとしても、こころのケアが忘れ去られないためには、定着させる装置が必要です。周産期精神保健はそんな装置としても働くのではないかと考えています。コロナ禍にあって感染症対策が優先される場合でも、周産期精神保健という装置が消滅せず「ある」ことによって、私たちは「何が大切か」というところに立ち戻れるのではないかと思います。コロナ禍に苦慮し、精いっぱいの努力を続けていらっしゃる皆様に、心からのエールを送ります。

令和4年度日本周産期精神保健研究会総会報告

日時：令和4年11月24日（木）17:00～17:30

総会は、ハイブリッド形式（第66回日本新生児育成医学会・学術集会 パシフィコ横浜会議センター5階511およびZoom meeting）により開催された。

事務局長の永田雅子より令和3（2021）年度活動報告が以下の順でなされた。

1. 令和3年度日本周産期精神保健研究会総会は、第4回日本周産期精神保健研究会会期中に開催された。
2. 第4回日本周産期精神保健研究会は、Covid-19流行により1年延期となり、令和3年10月30日31日、山中美智子会長の

もと、「子（個）をはぐくむ多様な家族への支援」をテーマにハイブリッド形式により開催された。山中氏より、258名の参加者をもって盛会であったことが報告された。

3. 地方部会活動報告

1) 高知周産期こころの研究会との共催事業

令和4年1月23日、3月13日の2回、室月淳氏を講師に迎え、「出生前診断と選択的中絶のケア」「人口死産のケアからその後のフォロー」の講演を開催した。参加者の多くが看護職を占め、臨床心理士、医師のほか、社会福祉士や保育士、精神保健福祉士の参加もあり、盛会であったことが報告された。

2) 第6回近畿周産期精神保健研究会は、令和4年2月26日、27日、遠藤誠之会長に「改めて他職種で考えよう母と子と家族の心に届く支援」をテーマに開催予定であることが報告された。

プレコングレス（周産期こころの研修会（後援））について、第6回近畿周産期精神保健研究会開催中（令和3年2月26日（土）10：00～12：00）に、「周産期のこころのケア～赤ちゃんとの出会いと別れ～」をテーマにWeb開催予定であることが報告された。

3) その他の活動として、健やか親子21との連携、ニュースレター発行を行った。

4. 令和3（2021）年度会計報告（資料1）

令和3年度日本周産期精神保健研究会会計報告

資料1

（2021年4月1日～2022年3月31日 単位：円）

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	1,081,787	事務局手当	156,000
会費	416,000	近畿周産期補助金	30,000
第4回日本周産期精神保健研究会開催助費返金	66,726	通信費	19,328
寄付金	2,000	事務消耗品費	19,192
		HP更新料	11,580
		次年度繰越金	1,330,413
計	1,566,513	計	1,566,513

上記のとおりであることを認めます。

2022年 9月 26日

久保 真
監事 船戸 正久

5. 令和4（2022）年度活動予定

- 1) 令和4年（2022）度日本周産期精神保健研究会総会は、令和4年11月24日17：00～17：30、WEB開催されたことが報告された。
- 2) ミニ講演会が、橋本洋子副理事長よりハイブリッド形式により、令和4年11月24日17：30～18：00、「周産期精神保健の意味と意義」について、ご講演いただいた。その内容は、ご厚意によってオンデマンド配信された。
(詳細については、別途貢参照)

6. 令和5（2023）年度地方部会予定

- 1) 第11回高知周産期こころの研究会が、2月12日に開催され、「胎児期からの緩和ケアの実践」について、余谷暢之氏、「いのちの理由～赤ちゃんのACPを考える」寺澤大祐氏により講演される。

7. 令和5（2022）年度関連事業予定

- 1) 第7回近畿周産期精神保健研究会は、2023年2月18日13：00～16：30、2月19日9：30～16：30、ハイブリッド形式（淀川キリスト教病院会場/オンライン）により、豊奈々絵会長のもと、「V U C A時代のメンタルヘルス～予測困難な時代に私たちが今できることは」をテーマに開催予定

プレコングレス（周産期こころの研修会（後援））について、第7回近畿周産期精神保健研究会開催中（2月18日10：00～12：00）に、「周産期のこころのケア～コロナ禍でみつけたもの・失ったもの～（仮）」をテーマにWeb開催予定

8. 令和5（2023）年度予算案（資料2）が提示され、承認された。新規に、事務消耗品費（30,000円）予備費（150,000円）計上される。

令和5年度日本周産期精神保健研究会予算(案)

資料2

(2023年4月1日～2024年3月31日 単位:円)			
収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	1,300,000	事務局手当	156,000
会費	350,000	近畿周産期補助金	30,000
		地方セミナー経費	30,000
		会議費	60,000
		通信費	30,000
		事務消耗品費	30,000
		HP更新料	11,580
		予備費	150,000
		次年度繰越金	1,152,420
		計	1,650,000
		計	1,650,000

9. 役員について

*板橋家頭夫氏（理事退任）、田村正徳氏（顧問就任）

*理事の就任 丹羽早智子（日本赤十字社愛知医療センターナゴヤ第一病院臨床心理士）

*事務局 緒川和代（岐阜県立総合医療センター）

10. 現会員数200名

上記内容が、承認された。

今後の活動予定は、決定次第、随時案内をしていく。

以上（文責 事務局 高橋由紀）

令和4年度第1回理事会 議事録

日 時：令和4年7月11日（月）17：00～18：05

開催方法：Zoom meeting

出席21名、委任状提出8名により理事会は成立とし、会議の進行をおこなった。

＜報告事項＞

1. 令和3年度活動報告

- 1) 第4回日本周産期精神保健研究会

2021年10月30日（土）Web開催（ライブ配信・オンデマンド）

・山中大会長より、今後の課題として、オンデマンド学会開催では、参加者と演者の一体感を得ることの難しさがあることが報告された。

- 2) 令和3年度日本周産期精神保健研究会総会

第4回日本周産期精神保健研究会会期中に開催された。

- 3) 地方部会について

・永井理事より高知周産期こころの研究会の開催について報告が行われた。

・窪田理事より、資料を用いて第6回近畿周産期精神保健研究会および講演事業である周産期こころのケア研修会について報告が行われた。

・高橋理事より、岐阜周産期こころの研修会はCovid-19流行下であることから、開催を延期しており、今後、研修会再開にむけて準備を進めていく予定であることが報告された。

4) 健やか親子 21との連携

- ・健やか親子 21 にも引き続き参加をおこない、会議には、側島理事長、高橋（由）事務局が参加した旨、報告された。会員へは、健やか親子 21 から送付される会議や研修会案内を会員へ周知しており、次年度も引き続き連携していく旨が報告された。

5) ニュースレターの発行

- ・年1回年度末頃、研究会の年次報告・総会報告を中心に行っている旨が報告された。

<審議事項>

1. 令和4年度の活動

1) 総会

- ・2022年11月24日 - 26日 第66回日本新生児成育医学年会期中の開催を検討することが報告された。あわせて、ミニ講演について橋本副理事長を講師として開催することについて承認された。
- ・佐藤理事より、ミニ講演開催にあたり、若手スタッフが参加可能な時間での開催について提案が行われた。事務局より有限オンデマンドなどの方法も含めて開催方法を検討していくことになった。

2) 高知周産期こころのケア研究会との共催事業

- ・永井理事より、下記、骨子案に基づき、説明がおこなわれ、承認された。

第11回 高知周産期こころの研究会

(共催：日本周産期精神保健研究会 助成：日母おぎやー
献金基金)

【対象者】周産期医療従事者（産科医師、小児科医師、
助産師、看護師、保健師、臨床心理士など）

【日時】詳細未定 日曜日 9時00分から12時00分まで
(予定)

【開催方法】Web開催（ZOOM）可能なら現地(高知)との
ハイブリッド開催

【講師】『胎児期からの緩和ケアの実践（仮）』

国立成育医療研究センター総合診療部緩和医療科診療
部長余谷暢之先生

【ディスカッションテーマ】『胎児期の緩和ケア』

～現場で医療従事者に出来ること～

3) 関連事業

近畿周産期精神保健研究会および周産期こころのケア
研修会の今年度の開催について窪田理事より報告が行わ
れた。

4) 健やか親子 21との連携

- ・前年度を踏襲して参加していくことが承認された

5) ニュースレター発行

- ・年度末に会員向けに発行をおこなっていくことが確認
された。

2. 今後の活動について

1) 次回全国大会について

九州での開催を含めて引き続き検討を行っていくこと
になった。

2) 地方セミナー等の活動

感染状況を踏まながら引き続き検討を行っていくこ
ととなった。

3. その他

1) 役員について

- ・顧問（会費なし）役割の運用について検討した。本研
究会定款について、変更案を検討し、総会において賛否
をはかり、運用を進めていくことを確認した。
- ・対象となる役員は、本研究会運営にあたり大きな貢献
をした理事とし、具体的には昨年度勇退された板橋元理
事に対して、側島会長よりご意向を伺っていただくこと
になった。

2) 会員番号について

・事務局より、現在、事務的に運用している番号を会員
番号に移行することについて、提案がおこなわれ承認さ
れた。なお、会員から理事に就任となった場合は、最初
に決定した会員番号を運用し、新たな理事用会員番号を
発行しないことで了解をえた。

3) 会員の異動

- ・前理事会からの新入会者について承認がされた。
- ・退会予定者について説明が行われ、退会者の多くは、
3年間会費未払（督促連絡あり）による自然退会である
ことから、継続の意向を個別に確認できる会員について
はお声かけいただくことになった。
- ・COID-19流行により、研究会や地方会、研修会が中
止・延期・オンライン開催となったことで、遠方の方でも
参加しやすくなったメリットはあるものの、新規会員
申し込みにつながりにくい状況であることが共有された。
入会者3名
退会者21名
現会員数197名

4) その他

理事より、下記、意見が出され審議が行われた。

- ・北島理事より、COID-19 流行下での早期母子接觸や面
会、母乳育児について、感染リスクの高い母子へのかか
わり方と多数のローリスク母子へのかかわり方について
検討していくことの意義が提案された

- ・高橋理事より、「COID-19 流行が子育てにどのような
影響を与えたのか」について、多職種で形成されている
本研究会で、事例を集積していくことの意義が提案され
た。これを受け理事長から2022年6月号の「周産期医
学」に本研究会員による関連執筆があることをお知らせ
した。

以上（文責 高橋由紀；事務局）

令和4年度第2回理事会 議事録

日 時：令和4年11月23日（水）18：00～18：55

開催方法：Zoom meeting

出席24名、委任状提出5名により理事会は成立とし、会議の進行をおこなった。

<審議事項>

1. 役員について

- ・板橋理事から退任の意向があったことが報告された。
- ・田村理事の顧問への就任について承認された。
- ・丹羽氏の新理事就任については明日の総会で承認予定であることが報告された。
- ・事務局体制構築のために、岐阜県総合医療センター緒川氏にもご協力いただく旨、永田事務局長より報告され、承認された。

2. 今年度の活動

1) 令和4年度日本周産期精神保健研究会総会

2) ミニレクチャー；橋本洋子副理事長（WEB開催）

- ・11月24日（木）17時よりハイブリッド開催予定である。
- ・現地参加希望者が5名程度いることから、第66回日本新生児成育医学会・学術集会場（パシフィコ横浜会議センター5階 511）が参考場所として確保されている旨、報告された。
- ・ミニレクチャーは記録用に録画させていただくことで承認を得られた。
- ・理事より、より広く見ていただく機会を提供してはどうかと提案があり、録画した講演の公開方法について検討した結果、会員には配信案内を行い、会員外の希望者については、所属および名前とともに、本件を知った経緯を確認し、URLを共有することとした。配信方法については、事務局メンバーで検討することになった。

3) 地方部会

- ・永井理事より、第12回高知周産期こころの研究会（2023年2月12日日曜日9：00～12：00ハイブリッド開催）の案内がおこなわれた。

4) 関連事業

- ・窪田昭男理事より、第6回近畿周産期精神保健研究会（2023年2月18日土曜日13：00～16：30 Web開催）の案内がおこなわれた。

テーマは、VUCA時代のメンタルヘルス～予測困難時代に私たちが今できることは」であり資料に基づき詳細なプログラムが提示された。

北島理事からも演者についての補足説明がなされた。

- ・オプザーバー参加の川野氏より2021年第6回近畿周産期こころのケア研修会プレコングレス開催報告がなされた。参加者160名+αであり、周産期こころのケアに関心ある多職種が参加したこと、補助金使用用途について資料に基づき報告された。あわせて、第7回近畿周産期精神保健研究会プレコングレス（2023年2月18日土曜日10：00

～12:00 Web開催）として今年度も開催する方向であることおよび補助金申請が行われた。

補助金申請について、窪田理事より、対面開催の場合は近畿周産期精神保健研究会との共催のため費用がかからないが、web開催は別途オンライン契約が必要である旨補足説明がなされた。また、岡田理事より、補助金によりオンライン契約が可能となると、会員ではない参加希望者が参加できるメリットもある旨も補足説明された。理事による審議において、昨年度同様の額での補助金の承認がなされた。

3. 令和3年度会計報告（資料1）

- ・会計報告書に基づき、永田事務局長より報告があった。
- ・監事の久保氏、船戸氏より会計監査の結果、問題がなかったことが報告され、承認された。

4. 令和5年度予算案について（資料2）

- ・資料に基づき永田事務局長より概要説明がなされた。高橋副理事長から、高知の研究会の予算執行状況について質問がおこなわれた。必要に応じて補助金の申請をしていただくこととし、事務局より永井理事に確認することとなった。
- ・現在、事務員のみ経費として計上しているが、事務局スタッフの増員に伴い、事務局経費については今後改めて検討していくことになった
- ・久保理事より、「予備費」の設定について意見があり、側島理事長より15万円（全体の1割）計上することが提案され承認された。総会資料は修正したものを提案することとなった。

5. 今後の活動について

- ・現在、全国研修会の開催については検討中である旨、側島理事長より報告があった。
- COVID-19の感染状況から、全国集会の開催を検討することが難しい状況ではあるが、開催していく方向で検討していきたいと提案が行われた。
- ・佐藤理事から、本研究会活動および地方を中心に今後も啓発活動を継続していきたいご意思の発言があった。その一方で、本職との関連で全国大会の打診については、開催が難しいという判断をされた経緯について説明が行われた。
- ・延期になっている愛知県での開催予定であった地方セミナーについて、事情が許せば開催していきたい方向である旨、側島理事長より説明がおこなわれた。

6. その他

- 1) 会員番号の発行について
 - ・会員番号の発行について総会で承認をうけて手続きを進めていくことが、永田事務局長より報告された。
- 2) 入会者の承認（現会員数：200名）
 - 入会者希望者3名の入会承認がなされた。
- 3) その他 丹羽新理事より就任を前に挨拶が行われた。

以上（文責 高橋由紀；事務局）

第3回近畿周産期こころのケア研修会開催報告

近畿周産期こころのケア研修会実行委員
大阪母子医療センター 川野由子

2023年2月18日（土）・19日（日）に、第7回近畿周産期精神保健研究会（会長 豊奈々絵先生：淀川キリスト教病院新生児科部長）がWeb形式で開催されました。テーマは、「VUCA時代のメンタルヘルスー予測困難な時代に私たちが今できることはー」で、参加者は280名でした。その初日の2月18日土曜日10時～12時に第3回近畿周産期こころのケア研修会をZoom形式で共催しました。

テーマは「周産期のこころのケアーコロナ禍で気づいた大切なことー」で、講師に橋本洋子先生をお招きして、「周産期のこころのケアが大切なのは、なぜ？一今、あらためて考えようー」をお話しいただきました。その後、橋本先生のご講義を受けて参加者がグループに分かれてディスカッションを行いました（図1：プログラム）。

グループディスカッションは、「コロナ禍で気づいた大切なこと」をテーマに、橋本先生の講義を受けて心が動いたことや、周産期の臨床現場でコロナ禍で失ったと思うこと、改めて大切だと気付いたこと等をそれぞれのグループで話し合いました。

参加申込者は68名で、関西のみならず他の地域からのご参加もあり、職種も周産期に携わる医師、助産師、看護師、心理士(師)、保健師、学生など多職種のご参加がありました。経験年数も20年を超える方から未経験の方まで多様で、テーマに関心を持って参加されていました。当日、通信などのトラブルでご参加できなかった方には、後日期間限定で橋本先生の講義を視聴していただくことにしました。

開催後のアンケートでは、「周産期のこころのケアの大切さを学ぶことができた」「ゆっくりとコロナ禍の体験や想いを話すことができて、自分も癒される体験ができました」などのお声もいただきました。

周産期医療は母と子の生命と身体を護る大切な現場ではあります、生と死、出会いと別れを含みながら親子が家族に

第3回 近畿周産期こころのケア研修会

周産期はいのちが誕生し、ヒトが人として生きていく上で必要な何かが新しく生まれる時期です。同時に、新しくいのちを抱えたおかあさんの身体と心はとてもデリケートです。特に赤ちゃんや出産に思ひぬ事態が生じた場合には、身体もこころも大きく揺さぶられて、喜び以上に悲しみや不安に苛まれることも少なくありません。

周産期領域に携わる私たちは、そのデリケートな周産期の親子の身体とこころを、多職種で連携しながら、あたたかで柔らかな関わりでケアしてきました。

しかし、コロナ禍においては、周産期の親子関係にさまざまな影響が及んだのではないでしょうか？そこで、コロナ禍を体験した周産期のこころのケアについて、グループワークを通して改めて再考したいと思います。

周産期のこころのケアー コロナ禍で気づいた大切なことー

I 講演：周産期こころのケアが大切なのは、なぜ？
～今、あらためて考え方～
講師 山王研究所 橋本 洋子

II グループディスカッション：コロナ禍で気づいた大切なこと

日 時 2023年2月18日（土） 10:00～12:00
形 式 Web形式 Zoom

参加費：無料
*当日のアンケートにお答えいただいた方に、研修証明書を発行します。

募集人数：先着60名（先着優先）

参加資格：周産期の臨床に携わっている方（医師、看護師、助産師、心理士、保健師、学生、その他）
（注）第7回近畿周産期精神保健研究会（別途申し込みが必要）に参加し、本研修会に最後まで
参加いただける方に限られています。

申込期日：第1次締切日 2023年1月15日（定員になり次第締め切ります）

参加申込み方法：右下のQRコードからお申込みください。

主催：近畿周産期こころのケア研修会 共催：第7回近畿周産期精神保健研究会
後援：日本周産期精神保健研究会、周産期心理士ネットワーク

QRコード

図1：第3回近畿周産期こころのケア研修会プログラム

なる交流が始まる場所でもあります。コロナの感染拡大という予想困難な状況で、生命と健康を守ることが最優先される中においても、人が生まれて人と出会いながら成長するところには、こころも護る多職種の視点と対応が大切だと再確認させていただいた会でした。

附記：ご後援をいただきました日本周産期精神保健研究会様にお礼申し上げます。

文責：川野由子



第12回 高知周産期こころの研究会開催報告

主催：高知周産期こころの研究会

共催：日本周産期精神保健研究会

高知医療センター 総合周産期母子医療センター

日母おぎやー献金基金助成事業

会期：2023年2月12日（日） 9:00～12:00

形式：Webと現地のハイブリット開催

講演：

1、胎児期からの緩和ケアの実践

2、いのちの理由～赤ちゃんのACP（人生会議）を考える～

胎児診断・出生前診断技術の向上と新生児治療の進歩により、より正確な出生前診断が可能になり、以前は救命し得なかった命が助かるようになってきています。一方で、乳幼児期に生命を脅かすと考えられる状態が胎児診断で明らかになった場合、その児、その家族に取って最善の医療とは何か、という課題はいまだ解決できていません。

そのような医療現場のなかで「胎児期からの緩和ケア」と言う考えに基づいて胎児および新生児のQOLと快適性を最大限に高めることに焦点をあてたケアを実践されている国立成育医療研究センター緩和ケア科、余谷暢之さんにご講演いただきました。同時に、ひとつひとつの「いのち」の意味を見つめ直す機会を大切にされている岐阜県総合医療センター新生児内科の寺澤大祐さんに「いのちの理由」についての講演会を頂きました。お二人の取り組みを知ることで、日々周産期の現場で働く私たち新たな知見を与えてくれました。

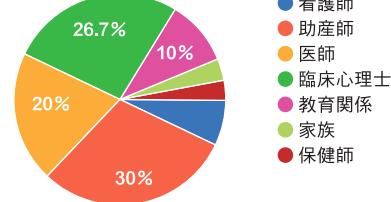
大変充実した内容でしたので、より多くの方々に講演会の内容を知って頂くために、後日動画を高知大学HPにアップする予定です。その際はお知らせさせて頂きます。

高知医療センター総合周産期母子医療センター
産科 永井立平



あなたの所属・職種は何ですか。

30件の回答



どこでこの会をお知りになりましたか。

30件の回答



研究会 開催記録

回	開催年月日	テーマ	司会者	開催地
4	2021年10月30日(土)	子（個）をはぐくむ多様な家族への支援	山中美智子 聖路加国際病院女性総合診療部	東京
3	2018年1月27日(土) ～28日(日)	病院と地域で家族の心を支える —私たちにできることは？	永田雅子 名古屋大学心の発達支援研究実践センター	名古屋
2	2015年11月14日(土) ～15日(日)	親子の物語が続くとき、私たちにできることは? —周産期から在宅医療までのかかわりー	側島久典 埼玉医科大学総合医療センター新生児科	さいたま
1	2013年11月2日(土) ～3日(日)	親子の物語が始まるとき、私たちにできることは?	窪田昭男 和歌山県立医科大学第2外科	大阪

(*所属はいずれも当時のもの)

地方セミナー 開催記録

*2020年3月に予定し、中止とさせていただいた第12回地方セミナーを下記のように開催予定です。

回	開催年月日	テーマ	司会者	開催地
12	2024年3月ごろ (日程確定次第 ご案内いたします)	分娩もNICUも厳しい面会制限が余儀無くされる中、私たちにとっても 苦悩に満ちた日々が長く続いてきました。 今回、会場はアクセスの良い名古屋駅周辺での現地開催を予定しています。会員の皆様におかれましてはぜひ現地に足をお運びください。久しぶりに対面で熱く討論し、皆様の苦悩が少しでも緩和される企画にできるよう準備したいと思います。	山田恭聖 愛知医科大学病院周産期母子医療センター	名古屋
12	2020年3月8日(日) 中止	家族と支援者におけるパートナーシップ —家族が家族になるために—	山田恭聖 愛知医科大学病院周産期母子医療センター	名古屋
11	2019年10月6日(日)	周産期における多職種での家族支援	久保実 石川県立総合看護専門学校	金沢
10	2017年9月9日(土)	妊婦と家族のこころに寄り添う ～妊婦さんやご家族が様々な困難に直面した時、 私たち医療スタッフには何ができるのか？～	永井立平 高知医療センター産科	高知
9	2016年10月29日(土)	多くの目と手と心で繋ぐ、小さな物語	高橋雄一郎 長良医療センター産科 寺澤大佑 岐阜県総合医療センター新生児内科	岐阜
8	中止			
7	2014年10月18日(土)	ふくしまの親子とのふれあいを通じて	氏家二郎 国立病院機構福島病院	福島
6	2014年4月20日(日)	出生前診断	渡部晋一 倉敷中央病院 総合周産期母子医療センター	倉敷
5	2013年3月16日(土)	NICU退院支援・ 在宅移行支援体制に、周産期精神保健の視点を	渡辺とよ子 都立墨東病院周産期センター	東京
4	2012年10月20日(土)	精神保健からみた出生前診断	佐藤和夫 国立病院機構九州医療センター 岩山真理子 九州大学病院 総合周産期母子医療センター	福岡
3	2012年2月25日(土)	事例検討 東北地方における妊産婦のうつと 虐待の現状／震災について	佐藤秀平 青森県立中央病院総合周産期母子医療センター	青森
2	2011年5月21日(土)	事例検討 解離性障害の母の出産と新生児の ケア、育児指導の問題点について	久保実 石川県立中央病院・いしかわ総合母子医療センター	金沢
1	2011年2月19日(土)	事例検討 23週の赤ちゃんと母への支援	丹羽早智子 名古屋第一赤十字病院小児科	名古屋

(*所属はいずれも当時のもの)

事務局からのお知らせ

1. 年会費納入のお願い

令和5年度の会費納入のための振り込み用紙を同封させていただきました。大変お手数ですが、お振り込みくださいますようお願いいたします。前年度まで未納がある方にはあわせてご案内いたしました。3年未納で退会となりますのでご注意ください。なお事務合理化のため、「振込金受領書」を会費領収書に代えさせていただきますのでご了承ください。

2. 会員番号について

会員番号を発行いたしました。会員番号はニュースレターをお送りした封筒宛名の右下4桁の数字です。

*令和5年度会費 2,000円

【振込先】郵便振替口座：口座番号00800-7-206686
口座名称：周産期精神保健研究会

(郵便局以外の金融機関からのお振込の場合)

銀行名：ゆうちょ銀行
店名：○八九店（ゼロハチキュウ店）
預金種目：当座 口座番号：0206686
口座名称：周産期精神保健研究会

3. 会員情報について

地方セミナー・総会等のご案内をメールで配信しています。ご登録いただいたいる会員情報に変更がある場合は、事務局までご一報ください。

【メール】pmhjimukyoku@gmail.com

【HP】http://www.shusanki-seishinhoken.com/お問い合わせ/